

日本気象学会2021年度総会について

日本気象学会の2021年度総会は、2021年5月21日(金)に筑波大学大会館において、日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞の表彰式とともに、審議及び報告を行うことになっていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の状況が思わしくないことから会員の皆様の健康と安全を第一に考え、監督官庁である内閣府の了解のもと、会場に集まらない形式で行うこととなった。

日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞の表彰式については、理事長の挨拶、表彰式および各受賞者から

の記念講演が行われた。これについては、オンラインで配信し、大会参加者の皆さまに広くご覧いただいた。

審議事項(議案1 2020年度事業報告、議案2 2020年度決算報告、議案3 2020年度監査報告)については、書面あるいは電磁的方法による参加票(議決権行使書、または議決権行使の委任状)の提出により意思表示をして頂くことにより各議案を議決した。

日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞の表彰式および審議事項の議事録について次の通り報告する。

2021年度日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞表彰式

日 時：2021年5月21日(金) 14時00分～14時30分

場 所：オンライン開催

進 行

1. 開会

橋本講演企画委員長より、2020年度日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞の表彰式の開会が宣言された。

2. 大会委員長挨拶

植田宏昭大会委員長(筑波大生命環境系教授)より挨拶があった。

3. 理事長挨拶(全文掲載)

理事長の佐藤 薫です。みなさまこんにちは。

まずは、日本気象学会2021年度春季大会の開催が無事に進められていますこと、大会実行委員会長の植田宏昭さんをはじめとする筑波大学、宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農研機構、防災科学技術研究所の大会実行委員会の皆様に御礼を申し上げます。この大会も、新型コロナウイルス感染症の大流行のため、前回秋季大会に続き、完全オンラインの開催となりました。3月までは、今日の行事、すなわち、シンポジウム、総会、表彰式、受賞記念講演については、現地開催でライブストリーミングをする方法が考えられており、久しぶりに現地に行けることを楽しみにされていた方も少なくなかったことと思います。大会実行委員会には、完全オンラインと一部現地開催の2つのプランを準備するなど、いつも以上にご苦勞をおかけしたのではないかと思います。また、講演企画委員会、

および、電子情報委員会の皆さんには、オンラインサイトの作り込み等で、今回も大変にご活躍いただきました。ありがとうございます。参加者は約730名で、春季大会としては4年ぶりに700名を超えました。これは、オンライン開催の定着・洗練化に加え、会員の皆様の学術交流の重要性についての強い認識の現れでもあると思います。多くの方のご参加に感謝申し上げます。

なお、大会の完全オンライン開催に伴い、いわゆる「総会」における議案の審議と事業計画の報告等につきましては、書面または電磁的方法による参加票の提出を主体とした議決とし、本日正午からの別途開催といたしました。ご理解とご協力をありがとうございました。オンラインによる総会審議のあり方につきましては、いただいたご意見も踏まえ、引き続き検討を行ってまいります。

前回の秋季大会でご紹介いたしましたように、今期、第41期理事会では、レギュラーな運営に加えて、「ウィズ/ポスト・コロナ時代の大会のあり方検討WG」と「財政改善検討WG」の2つのワーキンググループを立ち上げ、目下の懸案事項を集中的に議論・検討しています。渡部雅浩理事を座長とするウィズ/ポスト・コロナ時代の大会のあり方検討WGはこれまで5回会議を開催しました。昨年度の秋季大会のアンケートの結果や他学会の情報を集めて、直近の大会実行委員会にも参加していただき、コロナ禍中のよりよい大会方式の検討をしています。また、新型コロナ感染症収束後の大会のあり方

も議論しています。この中においては、オンライン方式の積極的な活用も含めて議論されています。

オンライン方式は、スライドが見やすい、音声聞き取りやすい、セッション移動が瞬時にできる、国外も含めた遠隔から参加がしやすいなどのメリットがある一方、臨場感が少なく、達成感が得られにくいというデメリットもあります。昨年度秋季大会のアンケートの結果を見ますと、全体的に満足度の高い会議だったことがわかりますが、新型コロナとの付き合いも1年を超え、皆さまも様々なオンライン研究会を経験されて、視点に変化があるかもしれません。大会後にはアンケートが計画されていますので、ぜひ、この春季大会のご感想や、大会開催の形式についてのご意見やご希望、アイデア等を忌憚なくお寄せいただければと思います。特に、若手・中堅の研究者や技術者の方々、研究者を目指している大学院生の方々は、将来ご自身が学会を運営する立場になることを視野に入れ、ご自身の問題としてとらえてご意見をいただけるとありがたいです。

気象学会の財政状況は、2015年度以降の5年に亘る大きな収支赤字の継続により、きわめて厳しい状況にあります。廣岡俊彦理事を座長とする財政改善検討WGはこれまで4回会議を開き、学会が行う事業の一つ一つについて財政的視点からの現状確認と改善検討を行い、可能なところから実行に移しています。春季・秋季の大会は最も大きな事業の1つですが、大会の会場費も年々増大しておりますので、経費面からもオンラインを組み込む可能性を含め、収支改善に向けた検討を進める予定です。気象集誌、SOLA、天気、気象研究ノートの出版事業については、印刷経費の増加など悩ましい面がある中で、投稿数の増加策、適切な投稿料の検討など、各委員長を中心にきめ細かい対応をしています。さらに、広報活動の強化、寄付の促進のための検討も新たに始めました。2020年度は、久しぶりに気象学会の会計は黒字に転じました。これは、コロナ禍で支部を含む各研究会や会議がほぼ全てオンラインになり、会場費や旅費の使用がほぼなかったこと、それから、昨年度固有の事情として各賞の受賞者が少なめだったことなどが理由であり、赤字体質を改善できたためではありません。引き続き、財政改善に取り組んでいきます。

さて、このようなコロナ禍の異例の昨年度でしたが、学会の事業を振り返ってみますと、会員の皆さま

の努力により以前と変わりのない活動も多く行われていたことがわかります。各研究連絡会による研究会はオンラインで8回開催されています。各支部においても、昨年度初めのパンデミック初期の一部の中止を除き、講演会やサイエンスカフェ等がオンラインで行われています。昨年度春季大会は現地開催が見送られましたが、ジュニアセッションはオンラインで行われ26件の発表がありました。気象予報士会との共催である気象サイエンスカフェも3件行われています。第53回となる夏季大会もオンラインで行われましたが約400名の参加を得ました。このように、参加者が大きく増加した企画も多く、オンライン開催のメリットがあったと考えられます。

一方で、コロナ禍のためできなかった事業もいくつかあります。まず、楽しみにされている方も多い小倉特別講義は、開催が見送られました。国際学術集会もほぼオンライン開催が中止となったため、渡航費の補助はありませんでした。これらの原資である小倉義光・正子基金については次年度以降の事業の充実に活用させていただく予定です。

本日午前中は、大会実行委員会の企画により「超学際研究の推進に向けて～関連諸学会・一般社会との連携～」という壮大なテーマのシンポジウムが開かれました。多様な観点からの議論があり、学会の今後の1つの方向性として、大いに参考になるシンポジウムでした。41期理事会は、コロナ・財政という目下の問題に現在取り組んでおりますが、一段落した後は、気象学の将来について考える機会を設けたいと思っています。春季大会も残りわずかになりましたが、このあと、日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞の表彰式、受賞記念講演が続き、夕方にはオンライン交流イベントも企画されています。

どうぞ皆さま本日も最後まで大会をお楽しみください。

4. 表彰

(1) 日本気象学会賞

佐藤理事長より受賞者に賞状並びに賞金・副賞のメダルが授与された。受賞対象となった業績は以下の通り。

○茂木信宏（東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻）

単一粒子測定技術の開発に基づく大気エアロゾルの動態と放射影響の研究

(2) 藤原賞

佐藤理事長より受賞者にそれぞれ賞状並びに賞金・副賞のメダルが授与された。受賞対象となった業績は以下の通り。

○鬼頭昭雄 (気象業務支援センター)

数値モデルを用いた気候変動研究への貢献

○山内 恭 (国立極地研究所)

わが国における極域大気科学・気候科学研究への長年にわたる貢献

(3) 岸保・立平賞

佐藤理事長より受賞者に賞状並びに賞金・副賞のメダルが授与された。受賞対象となった業績は以下の通り。

○石井正好 (気象研究所), 森 信人 (京都大学防災研究所)

地球温暖化対策に資するアンサンブル気候予測データベースの開発と気候変動リスク評価研究成果の社会実装

(4) 気象集誌論文賞

受賞対象となった論文は以下の通り。

○Kazuto Takemura, Hitoshi Mukougawa

Dynamical Relationship between Quasi-stationary Rossby Wave Propagation along the Asian Jet and Pacific-Japan Pattern in Boreal Summer., J. Meteor. Soc. Japan, Vol. 98, No. 1, 169-187 (2020)

○Bjorn Stevens, Claudia Acquistapace, Akio Hansen, Rieke Heinze, Carolin Klinger, Daniel Klocke, Harald Rybka, Wiebke Schubotz, Julia Windmiller, Panagiotis Adamidis, Ioanna Arka, Vasileios Barlakas, Joachim Biercamp, Matthias Brueck, Sebastian Brune, Stefan A. Buehler,

Ulrike Burkhardt, Guido Cioni, Montserrat Costa-Surós, Susanne Crewell, Traute Crüger, Hartwig Deneke, Petra Friederichs, Cintia Carbajal Henken, Cathy Hohenegger, Marek Jacob, Fabian Jakob, Norbert Kalthoff, Martin Köhler, Thirza W. van Laar, Puxi Li, Ulrich Löhnert, Andreas Macke, Nils Madenach, Bernhard Mayer, Christine Nam, Ann Kristin Naumann, Karsten Peters, Stefan Poll, Johannes Quaas, Niklas Röber, Nicolas Rochetin, Leonhard Scheck, Vera Schemann, Sabrina Schnitt, Axel Seifert, Fabian Senf, Metodija Shapkalijevski, Clemens Simmer, Shweta Singh, Odran Sourdeval, Dela Spickermann, Johan Strandgren, Octave Tessiot, Nikki Vercauteren, Jessica Vial, Aiko Voigt, Günter Zängl

The Added Value of Large-eddy and Storm-resolving Models for Simulating Clouds and Precipitation., J. Meteor. Soc. Japan, Vol. 98, No. 2, 395-435 (2020)

○Yasuhiro Kawabata, Munehiko Yamaguchi

Probability Ellipse for Tropical Cyclone Track Forecasts with Multiple Ensembles., J. Meteor. Soc. Japan, Vol. 98, No. 4, 821-833 (2020), doi:10.2151/jmsj.2020-042.

(5) SOLA 論文賞

受賞対象となった論文は以下の通り。

○Fumiaki Fujibe

Temperature Anomaly in the Tokyo Metropolitan Area during the COVID-19 (coronavirus) Self-Restraint Period., SOLA, Vol. 16, 175-179.(2020)

2021年度総会審議事項議事録

日時：2021年5月21日（金）12時00分～12時15分
場所：公益社団法人日本気象学会 事務室（東京都港区）

決議の要件：定款第17条第1項により、総社員の3分の1以上が出席し、出席社員の議決権の過半数をもって決議を行う。新型コロナウイルス感染症の拡大の状況を踏まえ、社員総会の決議は、原則として、書面あるいは電磁的方法による参加票（議決権の行使、または議決権行使の代理委任）の提出により行った。

参加票提出数：1,273名（総社員数（個人会員総数）3,088名（2021年4月9日現在））

議事：

1. 開会

日本気象学会事務局より、参加票の提出が決議を行うために必要な状況を満たしていること（総社員の3分の1以上の議決権が行使される状況）が報告され、総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長は、出席社員のうち、橋田俊彦会員（元

気象庁)とした。

3. 2021年度総会議案及び採決

(1) 議案1：2020年度事業報告

事務局から、提出された参加票の提出状況について、理事会案に賛成312名、保留1名、反対0名、議長に委任する者が959名、無効票1名との報告があった。出席者全員が事前提出の参加票のとおり意思を示した。議長は理事会案に賛成した。この結果、1,271名が議案1に賛成し、議案1は承認された。

(2) 議案2：2020年度決算報告

事務局から、提出された参加票の提出状況について、理事会案に賛成311名、保留2名、反対0名、議長に委任する者が959名、無効票1名との報告があった。出席者全員が事前提出の参加票のとおり意思を示した。議長は理事会案に賛成した。この結果、1,270名が議案2に賛成し、議案2は承認された。

(3) 議案3：2020年度監査報告

事務局から、提出された参加票の提出状況について、理事会案に賛成312名、保留1名、反対0名、議

長に委任する者が959名、無効票1名との報告があった。出席者全員が事前提出の参加票のとおり意思を示した。議長は理事会案に賛成した。この結果、1,271名が議案3に賛成し、議案3は承認された。

4. 議事録署名人の指名

議事録署名人に、出席社員の池上雅明会員（気象庁）と勝山 税会員（元気象庁）を指名した。

5. 議長解任

議長より、参加票で寄せられた会員の意見等について理事会での適切な処理を希望するとの発言、総会の準備・運営に携わった方への感謝があり、その後、議長は解任された。

6. 閉会

日本気象学会事務局により、総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

2021年5月28日

総会議長 橋 田 俊 彦
出席者代表 池 上 雅 明
出席者代表 勝 山 税